

路面温度上昇抑制効果を有する 歩道用保水性路盤材

- 利用の手引き（案）による技術提案（H21～22） -

愛媛県産業技術研究所 建設技術センター 主任研究員 青井 浩仁

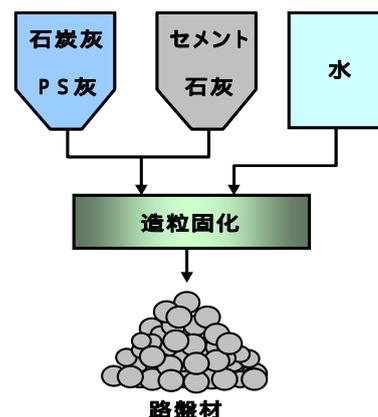
石炭灰やP S灰を造粒固化した、保水性路盤材を用いて、歩道の路面温度の上昇を抑制する技術について検討しました。

保水性路盤材の製造

石炭灰やP S灰とセメントや石灰などに適度な水を加え、ミキサーで混合造粒し、養生固化させて製品化

保水性路盤材の特徴

吸水性、保水性に優れている
軽量である
産業廃棄物の再資源化
強度が低く、耐久性に劣る



	保水性路盤材	通常路盤材
舗装構成		
サーモグラフィ写真	<p>路面温度 41.0 (5.0)</p>	<p>路面温度 46.0</p>
<p>保水性路盤材は路面温度上昇抑制効果を有する</p>		

降雨後20日目の通常路盤材との路面温度差

フィールド実験等を通じて、保水性路盤材は、路面温度の上昇抑制に有効であることを確認し、技術提案として利用の手引き（案）にまとめました。この保水性路盤材を用いた歩道舗装は、すでに県内の一部で施工されるなど、技術移転が始まっており、今後、普及促進が期待されています。